

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800340		
法人名	医療法人社団 小野病院		
事業所名	グループホーム レインボー		
所在地	喜多方市関柴町上高額字広面673-6		
自己評価作成日	令和4年7月16日	評価結果市町村受理日	令和4年11月1日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為、慰問や外出などは自粛しているが、防災訓練は地域の方々に声掛けをし 万が一の時でも対応できるように取り組んでいる。  
入居者が洗濯を干したり、たたんだり食事の際は配膳や下膳を行うなど自宅に近い生活を送っている。  
季節に合った行事を行ったり食事を提供している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年9月15日		

1. 事業運営の基軸となる事業所理念に基づくケアが実践されているか否かを毎月の職員会議で確認している。それらの積み重ねのもと、新年度事業計画策定とともに、理念内容の確認・見直しを行っている。  
2. 日々の関わりのなかで、利用者の希望や思いの把握に努めている。寝付かれずにホールに出て来られる利用者や温かいものを飲みながらじっくりと話を伺ったり、入浴介助中には若かりし頃の思い出話を傾聴し、保清ケアのみならず、個別理解と信頼関係を深める支援をしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員会議において話し合いをし見直しをしている。玄関やホール、職員トイレなど目につくところに掲示している。	理念に基づくケアを実践しているか毎月の職員会議で確認し、新年度事業計画策定の際にも、理念内容の確認・見直しを行っている。スタッフルームや職員トイレのドアのほか、玄関内やホール内にも掲示し、理念を来訪者とも共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通年だと季節の行事や園児たちの慰問などがあったがコロナ禍により自粛している。	自治会に加入し、コロナ禍前は市内一斉清掃にも参加していた。数ヶ月前に幼稚園から来訪(交流)希望の問い合わせがあったが、コロナの関係で断らざるを得ないのが現状と伺う。地元広報により地域の情報を共有している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し地域住民との交流の機会を設けていたがコロナ禍の為に中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議はコロナ禍で自粛しているため議事録を送付し、意見、要望をもらえるよう協力を呼び掛けている。	コロナ禍により書面開催としている。会議資料には、利用者の状況、行事や避難訓練等の実施状況などが記され、広報「かけはし」とともに各委員に配布している。意見や要望を伺う用紙も同封し、地域包括支援センターからは詳細なコメントが寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が、市主催の連絡協議会に参加し情報の共有をするなどサービスの向上に向けてとりにくんでいるが、今はコロナ禍で難しい。施設内で事故とかあった場合には速やかに報告し文書も提出している。	市担当課とのやり取りは、コロナ禍により電話・ファックス・メールが中心となっている。運営推進会議の資料や事故報告書を持参し、口頭説明も加え、助言を頂いている。市担当課と協働のもと、グループホーム理解促進の啓蒙活動も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束についての知識を学んでいる。入居者の安全確保の為に状況に応じて話し合いをし取り組んでいる。	入居間もない方は家族の同意を得て、人感センサー(ワイヤレスチャイム)を設置し、安全を担保している。虐待の自己点検シートを年1回全職員でチェックするとともに、年4回虐待・身体拘束廃止の勉強会を開催している。玄関は19時から翌7時まで防犯のため施錠し、日中は解錠している。	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3ヶ月に1回以上開催するとともに、その結果について職員に周知徹底を図ることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を開催し理解してケアをし未然に防ぐよう努めている。また言葉の暴力はないか職員間でお互いの言動に注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会を行い制度について学び必要に応じて関連機関との連携を図りながら支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。料金、契約の改訂の際はその都度説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているがコロナ禍で面会もできていない。電話等での家族からの要望や意見に迅速に対応、回答できるように努めている。	感染対策に留意しながらガラス戸を挟んでの面会を継続しており、家族来訪時やケアプラン説明の際に、意見や要望を伺っている。また、毎週日曜日にお茶会(茶話会)を催し、利用者の嗜好や希望を活かした献立づくりにも反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い職員が発言できる機会を設け業務に反映している。コロナ禍の為法人会議はパソコンによるズーム会議で行っている。	管理者は毎日の申し送りや休憩時間などを利用して職員の意見を聞く機会を設けている。毎月の職員会議では提案された意見をケアや事業運営に活かしている。理事長も定期的に来訪し、職員から直接声を聞く機会を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい職場づくりに努めている。業務に支障がない限り、希望の休みや有休を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が施設内、外部研修を受ける機会を設け、その内容を報告しスキルアップに努めている。コロナ禍の為外部研修はリモートで行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の連絡協議会への参加、イベントへ参加し交流を図り意見交換等を行ってきたがコロナ禍で開催が中止となったりして参加できてない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や困っている事、不安に思っていることなど傾聴し安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの思いや要望、相談等を伺い少しでも不安なくサービスが利用でき安心して生活が送れるよう努めている。入居者の必要な物品の購入の代行している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスをお聞きして訪問内容や往診歯科、協力病院等への受診について説明を行い、なるべく入居前と同じ生活が送れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々を尊重しながらその方に合った役割を持っていただけるような支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の生活の状況をお便りやホームだより「かけはし」にて報告している。ご家族来所時には本人の思いや現状を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会は制限されているが電話や手紙でのやりとりで交流が続けられる支援をしている。	家族との電話や手紙のやり取りのほか、感染症対策に留意してガラス戸越しの面会などで関係が途切れないように支援している。毎月の広報「かけはし」には担当者からの手紙も添えられ、利用者の近況が伝わるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握しながら円滑な交流に繋がるよう職員が配慮し座席を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談窓口として利用して頂けることをお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを実施し本人の意向を伺い希望に沿った支援ができるよう努めている。入居者一人一人に担当職員を置き本人の意向を把握しできるだけ望ましい生活が送れるよう心掛けている。	日々の関わりの中で、利用者の希望や思いの把握に努めている。寝付かずにホールに出て来られる利用者や温かいものを飲みながら話を傾聴するなど、個別理解と信頼関係を深める支援をしている。帰宅願望などがみられるときも、思いを尊重し、無理に抑止せずに利用者本位のケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式(アセスメント)を活用しこれまでの生活歴等情報を頂き職員同士情報を共有し施設での生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルを測定し体調の変化を把握している。また申し送りや記録からも小さな変化にも気づき対応するようにしている。ご家族にもその都度報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを3か月おきに行い個々の状況把握に努め本人の意向や状態等を職員間で話し合い計画書に反映している。また状態に変化が見られた場合にはその都度担当者会議を行い話し合っている。	ケアマネジャーが職員・家族等からの意見を集約し、センター方式の「私の姿と気持ちシート」で個別理解を深め、短期目標の期間を3ヶ月、長期目標を6ヶ月を基本にプランを策定している。モニタリング・評価記録表でケア提供内容を振り返り、ケース検討会議のほか、職員会議や申し送りでケアの課題を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアのないように加え気づきや工夫を個別の記録に記入しカンファレンスを開き職員間で共有し、ケアの実践や計画書の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて通院等、必要な支援を行っている。状況に応じ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症防止の為ホーム外での活動は自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認しご本人とご家族の希望を伺っている。身体状況の把握に努め変化の早期発見、受診を心掛けている。	入居時に、事業所の職員対応による協力医への外来受診体制を説明して選択して貰っている。現在、精神科などの専門医以外は、利用者全員が協力医を選択している。専門医受診では、利用者の状態を文書にまとめ家族を通して主治医に伝達し、受診結果は家族から口頭で報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がおり、日常的に情報の共有や相談を行うことが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には管理者が医療機関やご家族と連絡を取り合い情報の共有や相談を行うことが出来ている。連携の医療機関とは日常的に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族と話し合う機会を持ち意向を伺っている。かかりつけ医や連携の医療機関ともその都度話し合っている。看取りケアは行っていない。	入居時に重度化対応に係る指針に基づき説明し、看取りを行っていないことを伝え、家族の理解を得ている。要介護3になった段階で、家族と相談し早めに介護老人福祉施設等への申し込みを行って貰っている。重度化した場合には、家族の意向に従い病院への入院や介護老人福祉施設・介護老人保健施設への移行を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアル作成と周知を行っている。救急情報カード、緊急連絡カードの作成をし急変時や事故発生時に備えたり勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回、昼夜想定及び各種災害を設定した避難訓練を行っている。職員にハザードマップの掲示、防災ラジオの設置をし日常的に情報収集に努めている。	事務室に市から配布された防災ラジオを備え、非常災害時の情報の早期把握が可能となっている。火災・地震・夜間など様々な想定で消防署立会いの総合訓練や事業所独自の避難訓練など年4回の訓練を実施している。コロナ禍前は、運営推進会議委員や近隣住民の参加を得て避難訓練を実施してきたが、コロナ禍により中断している。	災害時の備蓄として、水・缶詰・パックライス・乾パン・レトルトカレー・マスクなどを保管しているが、数量や賞味期限などの把握がなされていない。備蓄品を一覧表にまとめ品目・数量を明確して賞味期限等に応じて更新するなどの管理体制の整備が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した対応に努めている。プライバシーの保護の取り組みについての資料の作成や勉強会を行いプライバシーに配慮した支援を行うことが出来ている。	トイレの声かけを周囲の利用者に聞こえないように小さな声で行うようにしている。また、トイレや入浴介助の折は肌の露出を最小限にするなどプライバシーに配慮したケアに努めている。さらに、毎年、職員研修を実施し、利用者の人格の尊重やプライバシーの保護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや作業は強制せず、活動内容を選択して頂いたり、心身の負担にならない範囲で参加して頂いている。飲食物もできる限り希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているが一人ひとりのペースで過ごして頂けるよう意向を伺っている。職員の都合にならないよう注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせたおしゃれや身だしなみの支援を行っている。毎日化粧をする方やクリームをつけ肌の手入れを行っている方もいる。二カ月に一度訪問理容に入って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の手伝いや盛り付けなど、今は新型コロナウイルス感染症防止の為に遠慮して頂いている。毎週日曜日にはみなさんの献立で翌週の日曜日の献立を考えていただいたり誕生日にはリクエストを頂き食事を楽しんで頂けるよう支援している。	夕食のみ配食サービス業者のチルド食を利用している。朝食と昼食は職員が献立を工夫し、手作りの料理を提供している。日曜日には、利用者の希望を聞き翌週の日曜日のメニューを決めている。また、毎月1回程度実施している行事では、生寿司のテイクアウト、職員手作りのチラシ寿司、そばなど好みの食事を提供し楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取の記録を行っている。入居者ひとり一人の好みに合わせた食事を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやうがいの声かけを行っている。夜間は義歯の消毒を行っている。必要に応じては歯科医の往診がある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほぼ自立している。リハビリパンツや尿取りパットを使用している方には汚染時は交換して頂くよう声かけし清潔保持に努める。	排泄チェック表により、利用者一人一人の排泄パターンを把握している。リハパン・パッドを使用している利用者が多いが、全員が排泄は自立している。夜間も自分で起きてトイレで排泄している。主に、定時の声掛けや見守り確認の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は消化の良い物や食物繊維を含む物を使用し、水分摂取にも心掛けている。また毎日体操を行い体を動かしている。必要に応じては医師の指示のもと緩下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆様の要望を配慮しながら、入浴時は全身状態の確認も行っている。入浴剤を入れゆっくり入っていただいている。自分専用のシャンプーを用意している方もいる。入浴を拒まれた方に対しては無理強いせず清拭、更衣を行っている。	概ね午後3時30分までの午後の時間帯で、利用者1人当たり週3回の入浴としている。夕方の入浴を希望する利用者はいない。数種類の入浴剤を用意し希望を聞いて使用し、楽しんで貰っている。また、入浴時に職員と一緒に歌を歌ったり、会話をしながらゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、安眠できるような支援をしている。巡回時も目を覚まさないよう気をつけ様子を観察している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧を個々のファイルに保存いつでも内容を確認できるようになっている。また内服の変更時は申し送りノートに記入している。協力医療機関医師にいつでも相談できる体制にあるとともに、記名入りのケースを使用し誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で活動に限りはあるが、季節に合った行事やレクリエーション参加など、楽しみを持って生活して頂けるような支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在新型コロナウイルス感染症防止の為行うことが出来てない。	以前は、買い物・散歩・ドライブなど日常的に外出を行っていた。法人全体でコロナ感染防止を最重要課題として取り組んでいるため、外出はほとんど実施していない。外気浴も行っていない。コロナ禍以降は、病状が変化した時の外来受診以外に外出の機会はなく、利用者自身も外へ出たがらなくなっている。	コロナ感染防止の対策を十分に図ったうえで、他者との接触をしない時間帯の敷地内散歩や外気浴、車中ドライブなどの外出支援の検討が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は外出支援は行っていないため、外でお金を使うことはないが、本人が必要なものがあればご家族と相談して職員が買い物の代行し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使える公衆電話があり、自由に使えるようになっている。携帯電話を所持されている方もいる。ご家族からの電話は取り継いでいる。はがきが届いたり、返事を書き職員が代行でポストに入れることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下の多くの場所に入居者の方が作った作品や個別の作品を掲示し、いつでも楽しんで頂けるようにしている。時節相応の作品を見ながら交流して頂くことが出来ている。日差し等の眩しさはロールカーテン等で調整し、照明の強度、テレビ等の音量などは入居者の希望に応じ対応している。	壁面には、毎月、職員と利用者が共同で作成している季節に応じた貼り絵や折り紙の作品を掲示している。リビングに丸テーブルを置き、利用者が洗濯たみなどの作業や利用者同士の会話の場になるように配慮している。また、畳敷の小上がりのスペースがあり、利用者は寝そべて休息しているなど、好みの場所で寛げるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーやホールで話されたり、自室でご自身のペースで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	各居室のプライバシーは保持できている。ご家族との写真を飾ったりなじみのものを持ち込まれ、一人ひとりにあった環境づくりになっている。	居室には、エアコン・ベッド・タンス・クローゼット・洗面台が備え付けられている。利用者は、椅子・テレビ・遺影・置き時計などを持ち込み、壁には貼り絵などの自分の作品や家族の写真を飾り、それぞれがその人らしい部屋づくりを行っている。また、編み物や化粧品などを持参してもらい、これまでの生活が継続できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやトイレが多く待たずに使用して頂いている。ドアにはわかりやすいように大きく表示している。居室のドアには、必要な方に対しては手作りの表札を設置している。		